

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	190
		決裁期日	平成27年9月 日
名 称	第3回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日 時	平成27年8月24日（月） 午後7時00分～午後8時50分		
場 所	保健福祉総合センター2階 研修室		
出席者	協働のまちづくり推進委員13人（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 鈴木課長、自治推進班 谷口主幹、田中主事 合計16名		

【司会：事務局 町民生活課長】

◎ 会長あいさつ

持安会長： 本日の会議でご検討いただく項目は3つありますが、本会議をもって検討する段階は最後となります。人口減少に伴うまちづくり、総合戦略の策定に向けて町も動いているところであり、今後においては、そのことについてご意見をいただきたいと考えています。さらに、10月には、町長との懇談会を開催し、今までの会議で意見を交換し合い、我々自身が勉強してきたことをもって町長と意見交換させていただきたいと思います。委員の皆様には貴重な時間を割いて協議いただいておりますので、今後の会議も有意義な時間になりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【進行：持安会長】

議 題

1 「協働を推進する方策」の取組みについて

- 第2回推進委員会で出された「協働を推進する方策」の更なる取組に向けた検討内容の要点について事務局（谷口主幹）から説明。
- 協働を推進する方策の検討項目…資料1、資料2、資料3について事務局（谷口主幹、田中主事）から説明。
検討項目は、「4-6 住民会長懇談会の充実」「4-14 広報・広聴活動の強化」「5-8 子どもたちへの地域貢献の意識啓発活動」の3点。

■グループ討議

「協働を推進する方策」の検討項目
分野 〔行政〕及び〔推進体制づくり〕

【持安会長グループで話された意見】

項目 4-6 住民会長懇談会の充実

○住民会長連合会としての開催など充実策の検討

- ・話し合いから課題は見つかるので、自ら（住民会等）話し合いを持ち、その上で行政に提言で

きるように出来れば良いと思う。

- ・懇談会に向けて、事前に地域から意見要望を取りまとめしている住民会もあるので参考にする。
- ・懇談会の充実に向けては、地域の意見を事前に取りまとめ行政の考えを整理するなどの準備を行い、その上で話し合いを進めることが良いと思う。
- ・現状では住民会長連合会としての集まりの機会はもたえてないが、話し合いの場はあっても良いとの意見はある。
- ・住民会と町内会の関係（他のまちとは違う仕組み）を踏まえながら意見を集約する手法を検討する。住民会長連合会として意見を集約することができれば、まちづくりの話し合いの場に生かすことができると思う。
- ・話し合いの場の設定として、一つの会場で様々な方が語るパネルディスカッション的な手法を用いることで、聞いている人にも情報が伝わりやすいと思う。（同じような公聴事業として、まちづくりトークあり）
- ・地域ごとの懇談会を座談会的な雰囲気で開催し、その上で住民会長懇談会につながれば良いと思う。

項目 4-14 広報・広聴活動の強化

○地区モニター制度を検討する（モニターによる地域活動の期待、地域活動を広報し共有化するなど）

- ・地域において情報の共有が出来ているかどうかがある。
- ・ジオパークなど新規事業は広報しても十分知られないので、広める工夫が必要。
- ・住民会長の持っている情報は地域の情報を網羅していると思うので、地域内に新たなモニターが必要かどうか。
- ・住民会を紹介した広報シリーズは良いと思うので、住民会の取組情報を更新していくことが良いと思う。合わせて、町内会の活動を紹介することも良いと思う。

項目 5-8 子どもたちへの地域貢献の意識啓発活動

○社会福祉協議会の福祉学習支援、読み聞かせ活動等の学校との関わりを継続支援する

○学校の授業の中にボランティア活動を取り入れる

- ・読み聞かせは充実してきていると思う。
- ・子どもサミットは良い取り組みであり、意見を積み上げる等の情報のやり取りは良いと思う。
- ・ポスター掲出依頼や資源回収など、地域の人と接し挨拶する取り組みは良い。
- ・ふれあい昼食会に町内の各学校の参加が進めば良いと思う。（クラス単位など）
- ・認知症を理解する取り組みが学校等で行われれば良いと思う。（ビデオ等の活用）

【佐川副会長グループで話された意見】

項目 4-6 住民会長懇談会の充実

○住民会長連合会としての開催など充実策の検討

- ・住民会長懇談会で話し合われた事項について、町内会長までの報告はあるが、そこで滞ってしまう。町内会単位での懇談会の開催も必要ではないか。
- ・市街地はある程度の戸数があり継続できるだろうが、郡部は人口減少による住民会の継続すら難しくなる。その点も並行して検討が必要ではないか。
- ・町内会でも、地域によっては集まる人数に差がある。話し合われたことを文書で各戸に回して

もらえるとうまく伝達できると思う。

- ・住民会長連合会では、当時は町から助成金をいただいていたが現在は助成を受けていない。各住民会から1万円の負担金をいただき、合計25万円を活動費に充て、道町内会連合会への負担金や研修会等への参加費を賄っている。今後の運営向上のためにも町からの助成は必要と思う。
- ・ジオパーク認定に向けて動いている現在、まち全体が一丸となって動かなければならず、今後の協働のまちづくりにおいて住民会の役割は重要であり一番の要になると考える。そのため、住民会長連合会の仕組みをしっかりとつくるべきであり、連合会の意義や目的、役割をもう一度見直してはどうか。
- ・住民会長懇談会において、各住民会から様々な要望が出されるが、要望解決にも優先順位があり、なかなか要望に応えていただけない地域もある。町も各住民会から様々な要望に対し一度に全て解決するのは困難なことであり、優先順位をつけるしかない。住民会長連合会として、各住民会での共通の課題を示し、それを町に要望するような策をとることが良い。
- ・25住民会で集まることが難しいのであれば、違う仕組みを考えてみてはどうか。例えば、5つのグループに分け、5住民会で集まって出された課題を持ち寄るなど。

項目 4-14 広報・広聴活動の強化

○地区モニター制度を検討する（モニターによる地域活動の期待、地域活動を広報し共有化するなど）

- ・町の情報を得るのは、広報が一番有効である。
- ・防災無線について、町主催、共催の行事以外の地域で行われる行事等の事項を放送するようになると、もっと地域が活発になると思う。
- ・仕事をしている者は、地区モニターとの両立は難しい。
- ・取材を受けるのであればいいのだが、取材することは厳しい。
- ・地区でモニターが広報することで、町の広報とは違う視点で取材することができるかもしれない。
- ・住民会から町に取材に来てほしいと頼むことはなかなか無いと思うので、町から住民会にイベント行事等の情報を提供いただくようお願いするとよい。

項目 5-8 子どもたちへの地域貢献の意識啓発活動

○社会福祉協議会の福祉学習支援、読み聞かせ活動等の学校との関わりを継続支援する

○学校における意識啓発活動の取組みを推進する

- ・小学生からの教育が必要であり、朝の会の前などの時間を活用するとよい。
- ・現在、小中高の生徒は、挨拶や自転車の乗り方、スポーツの向上等、良い所がたくさんある。
- ・ジオパーク講演会にあった室戸市の事例のように、当町の子どもたちの活動、活躍を広めていくとよい。
- ・JRの乗り方がひどい高校生が多い。当町を含め富良野圏域は観光地であり、多くの観光客がJRを利用するため、観光客からすると残念に思われる。観光客の目線に立ち、観光地としての教育が必要である。
- ・小中高の野球団体が協力して当町のごみ拾い活動を行っている。その中でも、高校生がリーダー的な役割を果たし、挨拶も素晴らしく、感心する。
- ・会社で学生の「1日体験」を受け入れた。地域にどのような会社があり、どのようなことをし

ているかなどの地域と密着した指導も必要と思う。そのことにより地元に着する児童生徒が少しでも増えれば良いと思う。

2 その他

次回会議は、9月14日（月）午後7時から同会場で開催することを確認。

本会で話された内容は、資料にまとめ次回会議で確認を行う。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】